



CSR報告書 2005

Corporate Social Responsibility Report

# 宝印刷のCSRは 監査を改善につなげ それを繰り返す

代表取締役社長 あぐつ 堆 誠一郎

今なぜ「CSR経営」なのですか。

私どもはディスクロージャーを主体とした仕事なので、その延長上にCSRを充実させなければならない。従来は、透明性というか、財務面のディスクロージャーの充実に、最大の重点を置いてきた。だが、今では、環境や社会についてどう思っているのか、ガバナンス（企業統治）についてはどうか。ディスクロージャー自体も財務面だけではなくっており、大きく変わってきている。株主、投資家に対しては最も考えなければならないが、お客様、従業員、あるいは工場の周りの住民の方もおられる。さまざまなステークホルダーの方々に、宝印刷を理解していただくということで、CSR活動を始めました。

宝印刷は有価証券報告書などの印刷をビジネスとしてきているわけですから、情報セキュリティに対しても周到な体質をつくらなければならない。また、そうすることが競争力を強化することになりますね。

不良品というか、ミス印刷が許されないディスクロージャーの文書ですから、品質基準であるISOからスタートした。印刷では、紙とかインクを使っているので、環境に対しても配慮しなくてはなりません。さらにディスクロームもIT化してきていますのでISMS（情報セキュリティ）認証も取得して、ちゃんとやろうと。直近では投資家の情報とか、お客様の個人情報に近いものを取り扱っていますので、プライバシーマークも取得した。それらは

究極的には同じ考え方に基づいている。宝印刷の「CSR経営」ということで、一つのマネジメントで統合したシステムにまで進めてきています。

CSRでも「仏」（目に見える部分）と「魂」（目に見えない部分）があって、「魂」が根っこもいえます。CSRの「魂」の部分は形成されているのでしょうか。

宝印刷では、CSR係とか担当者をつくっているのではなく、全社から90人ぐらい代表者を選び、CSR教育を兼ねて実施している。そうすることでコンプライアンスの問題とか、環境問題や社会的な問題をみんなが考えるようになる。考え、行動する中で会社全体のCSRの水準が上がっていくのではないだろうか。それがいちばん大切だと思うんです。私どもは全社プロジェクトで、ただ単に何かの認証を取るだけのものではない。全社ですっと継続してやっている。CSRをやっていくことで宝印刷の品質なりブランドなりを高め、取引先の信頼も高め、ビジネス面でも必ずプラスに持っていく、ということでやっています。

## マニュアルは日々更新 見直しはエンドレス

CSRを行っていく中で内部監査、モニタリングを重視しているそうですがそのココロは？

監査して、「カイゼン」しなきゃいけないわけです。複数の人間が見て、直さなければならない問題が出れば、

問題がオープンになりますから、それをカイゼンしていく。内部監査というのは、その結果をカイゼンにつなげないと意味がない。会社をよくしようということでやれば、問題点を指摘して角が立つから黙ってしまうというようなことも、ゼロにはならないが少なくなります。間違ったところをカイゼンして新しいやり方をつくる。それをまた監査する。その繰り返し。試行錯誤しながら、マネジメントシステムを継続して動かしていく。CSR報告書も当社の商品ですが、開示の仕方などで、カイゼンを加えビジネスにつなげていく。

#### CSR経営とコーポレートガバナンスの接点については？

ガバナンスは、必ず外部から見てもらうということで保っていけるのではと思っています。社外監査役もそうですが、ISOでも認証の審査を受けるということも、外部から見てもらうわけですね。私どもの商売はディスクロージャーなので、意識していなくてもガバナンスが効いている面がある。やはりディスクロージャーですね。どこを見られてもいいという会社に、意識的にしないとCSRも本当のものにはならない。

#### CSRではマニュアル化、経営システム統合を進めていますか。

マニュアル化というのは日々更新が必要なので、エンドレスです。マニュアルをいちいち見なくてもできる「暗黙知」でできるのが理想ともいえる。だが、新しい機械が入り、仕事のやり方が変われば、マニュアルも変わる。担当者も変わる。基本のところは変わらないにしても、マニュアル化しないと、やはりCSRは成り立たない。ディスクロージャーで認知されている会社ですので、CSRでも認知され、競争力のある会社になりたいと思っています。

(このTop Interviewは、「週刊東洋経済」2005年7月9日号に掲載されたインタビュー記事の転載です。)



## ごあいさつ

わが国の証券取引法は、株式を公開した企業や一定の条件のもとでファイナンス(資金調達)を行った企業に対し、財務内容等の情報開示を求めています。1948年の同法施行を受け、制度開示制度の健全な発展をサポートすることを事業目的に、1952年に宝印刷は設立されました。爾来50年超の永きに亘り宝印刷は、「制度開示」さらにはこれが進化した「任意開示」の分野での経験と実績を活かし、ディスクロージャー(情報開示)制度に精通したエキスパートとして、株式公開・証券取引法・商法関連・IR・ファイナンス・投資信託などの分野に専門特化した印刷・情報加工を手がけており、きめの細かいコンサルティングとソリューションをお客さまにご提供させていただいております。

さて、宝印刷はディスクロージャーの専門会社として、従来から徹底して機密情報管理の体制に努めてきました。そして「企業の社会的責任」を果たす経営の方向性に合わせて、この情報管理体制を昇華させ、新たな「CSR体制」として再構築し、全社ベースでこれを運営いたしております。今般、新しい試みとしてこの簡易版CSR報告書を発行いたしました。本書を通じ、宝印刷の「CSR経営」をご理解いただければ幸甚に存じます。

今後ともよろしくご指導ご鞭撻賜りますよう、お願い申し上げます。

2005年11月 宝印刷株式会社

代表取締役社長

堆 誠一郎

# 宝印刷の「CSR体制」

宝印刷では、「品質」・「環境」・「個人情報保護」・「森林認証」などの国際認証を取得し、それぞれが要求するマネジメントシステムを、当初より一体化して構築しています。そしてマネジメントシステムが求める日々の活動を、全社員の約10%を占める内部監査員（48名 2005年5月31日現在）が監査する体制とし、この統合マネジメントシステムと内部監査体制の総体を宝印刷の「CSR体制」として運営しています。

## ■ 「宝印刷CSR宣言」

宝印刷では、CSRに関する基本理念および方針として、「宝印刷CSR宣言」を制定し、この宣言に沿ってCSRに取り組んでいます。

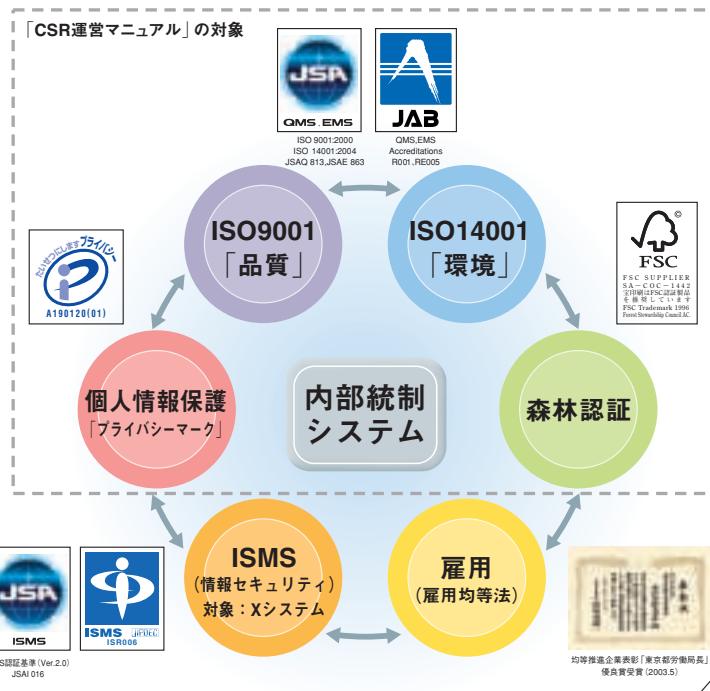
この「CSR宣言」は、宝印刷のホームページ (<http://www.takara-print.co.jp>) に掲載されていますのでご覧ください。

## ■ 「CSR運営マニュアル」

CSR体制を効果的に推進するため、「品質」・「環境」・「個人情報保護」・「森林認証」の各マニュアルを統合し、これを「CSR運営マニュアル」として運用しています。



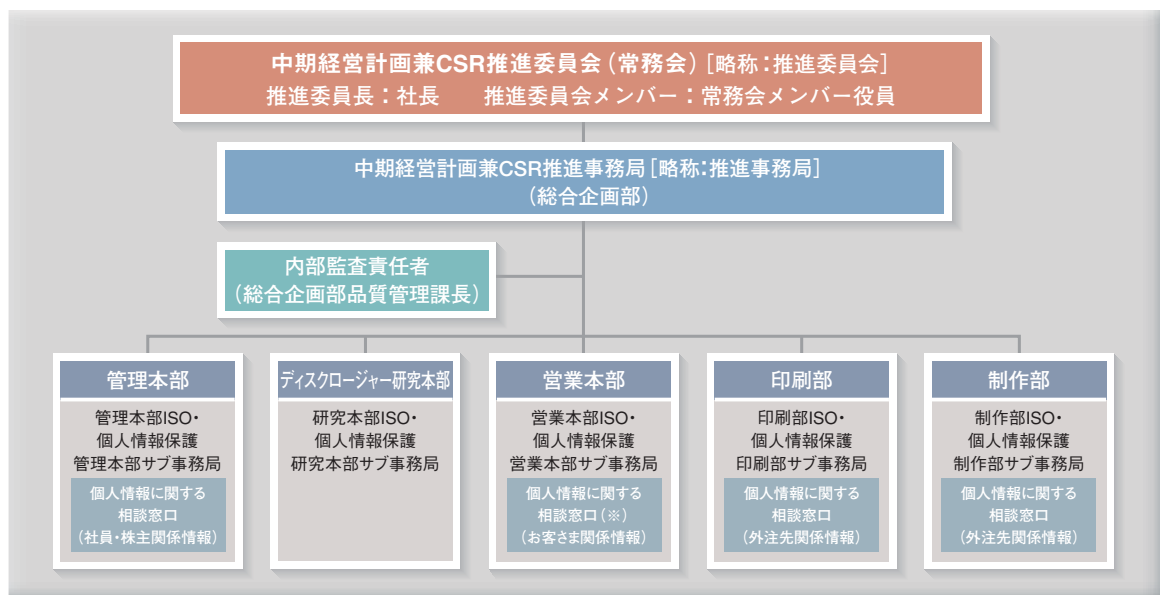
宝印刷「CSR運営マニュアル」



中期経営計画「ビジョン2007」

## ■ 「CSR推進体制」

宝印刷では、経営の基軸となる中期経営計画（ビジョン2007）推進の体制と、CSR推進の体制とを合体させ、これを「宝印刷CSR推進体制」として運営しています。



## 情報セキュリティ

宝印刷は、企業のディスクロージャーのお手伝いをするため、お客さまから各種の情報をお預かりしています。その中には、お客さまが対外的に開示する前の決算等のインサイダー情報や、新任役員、株主情報などの個人情報などが含まれます。また、お客さまからお預かりするもの以外にも、様々な個人情報を取り扱う機会があります。

お客様のディスクロージャー活動をサポートする役割の宝印刷では、プライバシーマークやISMSの規格に基づいた情報管理体制を敷き、情報の取り扱いには常に万全の注意を払っています。

### 書類作成のIT化への対応

宝印刷を含む印刷会社は、IT化の進展により、原稿の作成およびお客さまとの原稿のやり取りは電子ファイルでの取り扱いが主流となっています。そのため、お客さまからお預かりした情報を、漏洩から守らなければなりません。

そこで、宝印刷では、社内での文書管理、PCの廃棄、記録メディア等の取り扱いについて、定められた手順に従い厳重に管理しています。

さらに、お客さまとのデータ交換を効率的に行うため、セキュリティの確保された通信ネットワークを構築しています。

### プライバシーマークの取得

お客さまからお預かりした、あるいはその他の手段によって保有している個人情報に関しても、適切な取り扱いを行うため、マネジメントシステムを構築し、2005年3月に全社ベースで「プライバシーマーク」の認証を取得しました。このマネジメントシステムは、ISOの品質・環境マネジメントシステムと統合させ、宝印刷の活動全般において効率的にCSRに取り組めるように運営しています。



また、個人情報の取り扱い業務委託先については、宝印刷の個人情報管理方針の理解・実行を求めており、宝印刷の「委託先基準書」の基準を満たした協力業者と「個人情報保護の覚書」の締結を取り交わすことなどによって、適正な管理を行っています。

### ISMSの取得

宝印刷は、上記の管理が正しく機能するよう、ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）認証基準Ver.2.0に適合した体制を構築しています。また、お客さまにネットワーク上で文書作成環境を提供するサービスである「X System」は2004年12月に認証を取得しました。2005年以降も認証範囲を拡大し、最終的には全社に範囲を拡大していく計画です。



① データを管理する文書管理サーバアクセス者の識別、利用者の権限に応じたアクセス制御、アクセスの記録、更新履歴の取得を行います。

② 社内にあるマシンは権限のある者しか入室できないマシン室に設置されています。



ISMS認証基準 (Ver.2.0)  
JSAI 016



## 宝印刷の事業と品質・環境との関わり



ISO 9001:2000  
ISO 14001:2004  
JSAQ 813, JSAE 863



QMS EMS  
Accreditations  
R001, RE005

当社の印刷物製造フローは、①お客さまからの受注 ②書類制作、法令等のチェック ③印刷 の3工程から成り立っており、この全工程を対象に、ISO9001「品質」ならびにISO14001「環境」の両国際認証を取得し、高品質の維持と環境負荷の低減に向け、積極的な取り組みを行っています。以下、環境活動についてご説明いたします。

※環境のデータにおいて、①は営業部門のほかに管理本部の活動も含まれます。また、大阪支店別館工場は②制作と③印刷の両方の工程を含みますが、一括して②制作の数値としています。



### 1 営業・管理部門

生産活動を行わない営業部門においても、営業車両に使用するガソリン、書類の作成による紙資源などの環境負荷が発生します。

**【グリーン購入】** 当社では事務用品などの購入の際に、環境負荷の少ないエコ商品を購入するグリーン購入を心がけています。物品類をエコマーク付の商品などのグリーン製品に切り替え、さらにグリーン製品の情報収集も行っています。現在、当社で使用可能な約60品目のグリーン製品のうち8製品を購入対象としています。今後はさらに対象を広げていきます。



### 2 制作・研究部門

当社製品の制作は、1) PCで電子データ作成をする工程、2) 法的規制のあるディスクロージャー書類における適法性のチェックを行う研究部チェック工程、に大別されます。

**【品質管理と環境保全】** 制作工程では書類の制作や校正をするため、紙を大量に使用しますが、ここでやり直しが発生すると、余分に紙が消費されることとなります。当社が品質管理と環境保全を一体のものと考え、ISOの「品質」と「環境」を統合マネジメントシステムとした理由の一つがここにあり、品質管理を徹底して行うことが紙資源節約につながっています。



### 3 印刷部門

事業活動の中で、最も環境負荷の大きいのがこの印刷工程で、様々な環境対策に取り組んでいます。(本社工場および浮間工場)

**【5S活動】** 当社はISO14001取得前から、浮間工場を中心に環境対策や5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動などに積極的に取り組んでまいりました。自分の周囲の環境を保つことが、工場全体の環境負荷抑制につながるのと考えから、工場内の整備・点検を行っています。現在はこの5S活動を浮間工場以外へも展開し、職場の環境美化と社員全員の環境意識向上に努めています。

(2003年9月 浮間工場 第2回印刷産業環境優良工場表彰受賞)

## エネルギー・物質総投入量と総排出量 [2005年5月期 (2004年6月～2005年5月)]

当社が1年間の事業活動で投入したエネルギー・物質の総量と、排出した廃棄物等の総量は以下のとおりです。

さらに収集が必要なデータや細かい分類を要する項目もあり、今後はデータ収集方法の改善や、正確性の確保に向けた検討を続けてまいります。

【投入】		【排出】				
エネルギー	電力	3,137MWh	廃棄物	紙類	654.5トン	
	ガス	31,005.0m <sup>3</sup>		廃酸	15.8トン	
	ガソリン	16,610.9ℓ		廃アルカリ	18.9トン	
	用水	水道水		7,684.4m <sup>3</sup>	廃インキ・廃油	4.5トン
		基材・消耗品		紙類	6,965.8トン	廃プラスチック
		その他消耗品		25.6トン	金属くず	14.5トン
	化学物質	化学物質類		39.0トン	その他廃棄物	16.5トン
インキ類		6.9トン		排水	一般排水	7,910.2m <sup>3</sup>

## 環境目標 長期的な事業ビジョンの下で中期環境目標を策定

当社では、2004年6月から2007年5月までの3年間で達成すべき環境目標を以下のとおりに定めています。

目標	具体的目標	取り組み
1 エネルギー使用量の削減	全社電力使用率 2004年5月期比2%超削減(各年度累積削減)	●主要設備の生産効率向上 ●空調設定温度等、職場ルールの遵守・徹底
2 廃棄物の削減	全社総廃棄物排出率 2004年5月期比2%超削減(各年度累積削減)	●印刷の際の用紙超過・刷版不良・予備紙の削減 ●校正の際などでの紙の出直し件数削減 ●適正分別の実施 ●有価物化促進のための分別方法の調査
3 環境影響緩和の促進	再生紙使用率58%超(2005年5月期目標) 大豆油インキ使用率25%超(2005年5月期目標) 大豆油インキ使用量3%向上(各年度累積向上)	●再生紙使用促進(営業本部) ●大豆油インキ使用促進(営業本部) ●大豆油インキ使用の適性条件確保による使用量向上(浮間工場)
4 グリーン購入の促進		●毒劇物の代替物の検討 ●廃棄物処理業者の管理把握の徹底 ●使用可能なグリーン購入品の検討、およびグリーン購入対象品の拡大
5 間接影響の緩和		●外注委託業者、購買業者に対する緩和要請の実施(浮間工場、本社、大阪別館工場)

## FSC森林認証 (FSC COC認証) の取得

当社は、2005年5月にFSC COC認証を取得いたしました。森林認証制度とは、FSC(英国で設立された「森林管理協議会」)の基準に従って、地球環境に配慮し、経済的にも持続可能な方法により森林を管理しようとする制度です。FSC COC認証を取得することで、そのように管理された森林から生産された認証紙を取り扱うことができます。当社は今後も環境保全をさらに進めるため、お客さまに再生紙の利用と併せて森林認証紙を推奨してまいります。



FSC SUPPLIER  
SA-COC-1442  
宝印刷はFSC認証製品  
を推奨しています  
FSC Trademark 1996  
Forest Stewardship Council AC

## 宝印刷と人々と社会

宝印刷では、従業員一人ひとりが実行力を持ったプロフェッショナルとして行動し、仕事を通じて自らの価値を高め、誇りとやりがいを持って働くことができるよう、様々な人事施策に取り組み、採用や処遇においても、属性に関わりなく個人の多様な価値観や個性を尊重し、能力・成果に応じて公平・公正に評価しています。また、地域・社会への貢献を果すべく、全社員が積極的に取り組んでいます。

### ▶ 従業員への取り組み

#### 女性の活躍支援

宝印刷は、「女性活用」を重要施策の一つとして捉えており、2002年6月から「女性活用プロジェクト」を発足させました。2004年からは「女性の能力開発・モチベーションアップ」をテーマに、継続した活動を進めています。

具体的な施策として、プロジェクト発足前の2001年9月より、一定条件をクリアした女性一般職を総合職に異動可能にする「総合職転換試験制度」を導入しました。2004年4月からは年2回の試験を実施するなど、女性総合職増加に向けての積極的な施策を導入するとともに、女性役職者を計画的に増やすため、候補者を選定し、幹部候補としての計画的な教育を実施しています。

このような活動が評価され、2003年5月に、厚生労働省が実施している「均等推進企業表彰」において、東京労働局長優良賞を受賞し、また、2005年6月には、東京都主催の事業主向け均等法セミナー「職域拡大と女性労働」に当社社長の堆誠一郎が講師として招かれ、都内中小企業の経営者・人事総務担当者へ向けて、女性労働に対する宝印刷の取り組みを発表させていただきました。



事業主向け均等法セミナーで講演の堆社長

#### 宝育英基金

宝印刷では、2004年12月に従業員子弟向け奨学基金として、「宝育英基金」を創設いたしました。これは従業員の子弟である大学生を対象とし、次世代を担う青少年の健全な育成支援を目的に希望者へ奨学金の貸付けを行うもので、これまで2名が本基金を利用しています。

### ▶ 地域・社会への貢献

#### インターンシップの受け入れ

宝印刷は、社会経験を積みたいとする大学生などに機会を提供するために、インターンシップの受け入れを行っています。2003年から受け入れを開始しましたが、今後も受入枠を拡大し、学生の皆さんの活動を強くサポートしてまいります。

#### 地域への配慮と貢献

当社浮間工場（東京都北区）は、マンションに隣接していることもあり、①境界線の2メートル内に緑地帯を設置、②工場内壁に吸音材を使用、③納品・搬入の時間制限を設定、④駐車時のアイドリングを禁止、などによる周辺地域への環境および騒音対策を実施しており、また、月に1回、周辺道路の清掃を行い、地域環境の美化に努めています。



#### GRIに加盟

宝印刷は、2004年8月に、世界で広く通用する持続可能性報告書（CSR報告書）の、枠組み作りを進める非営利の国際機関GRI（グローバル・リポーティング・イニシアティブ本部：オランダ・アムステルダム市）に加盟し、“マルチ・ステークホルダー・プロセス”を通じて、世界的に普及している“サステナビリティ・レポート・ガイドライン”を発展させるというGRIのミッションを支援しています。



OSロゴ（2004年版）